

## 2012年台北展報告

財団法人自転車産業振興協会 国際業務部

### <概況>

出展企業数は前年比 15.2%増、特に海外から同 18.8%増の 285 社が集まり今年も賑やかな展示会となった。開幕式には再選されたばかりの馬英九総統が出席し、自転車産業は“幸福産業”と讃えた。さらに国内の自転車利用を促進し、3千キロの自転車道路網の整備など乗用環境を整備するとともに、今後台北展を世界最大の展示会にするなどと述べ、台湾における自転車産業の重要性を強く感じさせた。



馬総統も開幕式に出席

日系メーカーについては、新しいところでは今回は日本のミヤタが世界最軽量の高級クロモリフレームを出品し注目を浴びていたことが一つ挙げられる。また、ブースの位置も大変良い場所に割り当てられていた。



MIYATAブース

手作り感が前面に出て、色鮮やかな色彩のミヤタオリジナルのクロモリフレームは同社が昨年からは始動させたプロジェクトで開発したものだ。それを装着したロードバイクは重量が

6.54 kgという軽さで、完全受注生産方式を取っていて、手に入るのは、注文から4ヶ月後だそう。クロモリは亀裂が入っても判りづらいカーボンとは違う点が良いということである。日本でアッセンブルして輸出を目指すそうである。



MIYATA ロードバイク

また、パイオニアが出品したサイクリング用のナビゲーションシステムやサンスター技研の電動自転車用ユニットもそれぞれブースが小さいにも関わらず多くの来場者の注目を集めていた。



パイオニアブース

日本で増加している電動自転車の出品については、この台北展では昨年は BOSCH のユニットなどが出品され注目されていたが、今回はジャイアント3台、メリダ5台など、全般的に昨年に続き減少していた。

それはジャイアント、メリダも電動自転車は中国で製造していることに原因があるようだ。関係者によると、「台北展は Made in Taiwan での輸出を目的としており、恐らく4月の上海展では両社とも電動自転車の出品が増加するだろう」と語っていた。

### ＜補修市場製品アピールの場へと変化する台北展＞

欧米の大手完成車メーカーのバイヤーの来場が少なかったようだ。これは今年に限った話ではないようだが、聞くところ彼等は昨年11月に台中のいくつかのホテルで開催された Bike Week や Ride On という部品メーカーの集まる商談会でオファーは済ませているからだそう。中には集客力のある部品メーカーはホテルではなく、近くの自社工場にバイヤーを

招くということである。部品メーカーだけでなく、ジャイアント、メリダなど大手完成車メーカーも既にその頃に翌年分を受注する結果、この台北展のコアとなるメーカーのブースであっても年々小さくなっているように感じられた。さらに展示品もコンセプトモデルとメーカーの製品のほんの一部となってしまうている。

確かにメーカーにとって自社工場で商談が出来れば、展示会主催者に出展料や莫大なブース設営料などを支払う必要がなく、また、バイヤーにとっても落ち着いた環境でゆっくりと商売の話ができるのでメリットは多いように思われる。台北展と言えば、会場で大手メーカーが商売の打合せをするビジネスショーとして見ていたが、そういう時代は終わってしまったようである。

しかし、前述したように展示会事務局の発表した出展社数を見ると、昨年比べて大幅に伸びている。また、今回はアジア市場からの客が多く、例えばインドネシア、タイ、マレーシア、シンガポール、中国、インドなどから来た卸商や小売商が自国で売りたい物を探していたようだ。欧州からの卸商もたくさん来ていたという。主催者の発表では、海外からのバイヤーは前年比 13.1%増の 6,448 人が来場したということだ。日本のメーカーでも、例えばキャットアイや箕浦、パナレーサー、三ヶ島等は完成車への装着より補修市場での販売を中心として、新製品のプレゼンテーションを行っていた。

このように台北ショーは従来の“完成車のスペック検討の場”から、“補修市場製品のアピールの場”に大きく変化し始めている。

今の日本のメーカーのパーツは、一部の部品メーカー以外はほとんど完成車装着に供されていない。しかし、それらのメーカーにとってこの展示会は、補修市場へのアピールの場としての必要性が増してゆくのではないかと思われる。

さらに、11月の商談会に出たメーカーのなかには、出展には多額の経費が掛かるのにも拘らず再び台北展に出ているところも多い。出展の理由を尋ねると、一様にこの展示会は、“仲間との交流を通じた業界情報の交換の場”としても必要なのだという。

思惑は各社、各人様々であろうが、台北展は概ね補修市場へのアピールの場として、そして業界情報交換の場として今後も多くの業界人を集め続けていくのではないだろうか。

### <開催時期を早めることについての TAITRA の意向>

主催者である中華民国対外貿易発展協会(TAITRA)は、現在開催されている台中での商談会を考慮して、展示会の開始時期を 11 月に早めることについて、既に 4 年前から検討しているようだ。しかし、台湾の自転車工業会である台湾区自転車輸出業同業公会(TBEA)は、11月の商談会は各メーカーの固定客に対するものであり、一方、3月の台北展は世界各国への輸出を目指すものであるため、部品メーカーは前倒しを望んでいないこと、そして、もし 11月と 3月の二回、台北展を開催した場合、3月の方は不調に終わってしまうことが予想されるので苦慮しているとのことだった。将来は商談会と展示会を統合する可能性もあるが、今は未定だそうだ。

声をかければバイヤーを自社に呼べる、集客力の強いメーカーにとっては 11月の Bike Week 等の商談会は好都合かもしれないが、そうでないメーカーにとっては、台北展は依然、必要不可欠な展示会であるようだ。

次回は年度末間近の 2013 年 3 月 20～23 日に開催されることになっている。

### <展覧会データ>

展覧会名: 2012 台北国際自転車展覧会 (TAIPEI CYCLE)  
会 期: 2012 年 3 月 7 日 (水)～10 日 (土) 4 日間  
展示時間: 7～9 日 9:00～18:00、 10 日 9:00～15:00

場 所： 台北世界貿易中心南港展覽館（1F、4F、5F、6F、屋外）  
 主 催： 中華民國對外貿易發展協會(TAITRA)  
 共 催： 台湾区自行車輸出業同業公会(TBEA)、  
 台湾区車輛工業同業公会、台湾区ゴム工業同業公会  
 出展企業数： 1,092 社（前年 948 社、前年比 15.2%増）  
 （国内 807 社 前年比 14.0%増、海外 285 社 同 18.8%増）  
 ブ ー ス： 3,288（前年 3,060、前年比 7.4%増）  
 （国内 2,487 前年比 7.5%増、海外 746 同 7.4%増）  
 展示総面積： 58,000 m<sup>2</sup>

（TAITRA 発表数値）

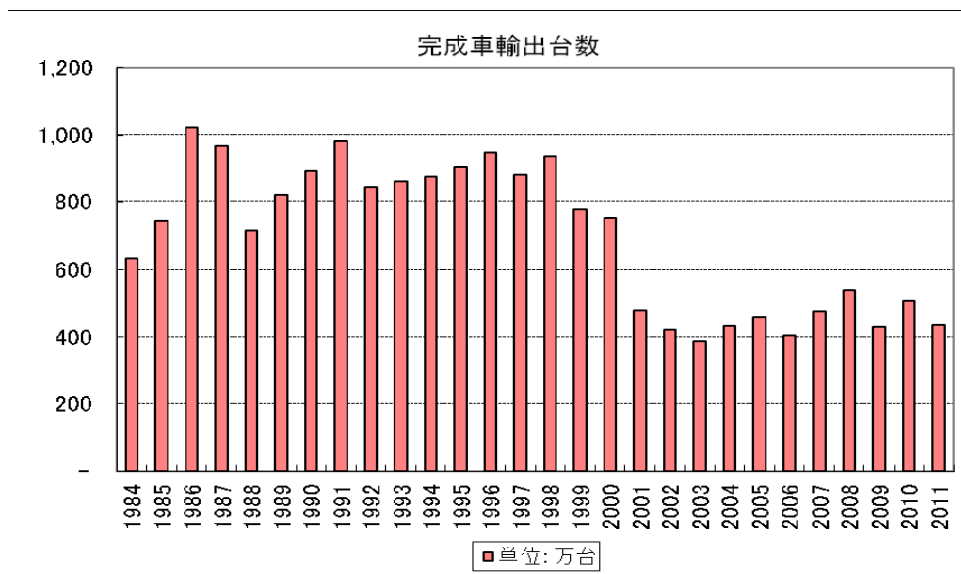
## ●台湾業界近況

### <完成車輸出>

台湾輸出業同業公会によると、台湾の 2011 年の輸出状況は、前年比 13.7%減の 438 万台、金額は同 10.7%増の 16 億 6,300 万米ドルとなった。また、平均輸出単価は同 28.2%上昇し 379.96 ドルだった。

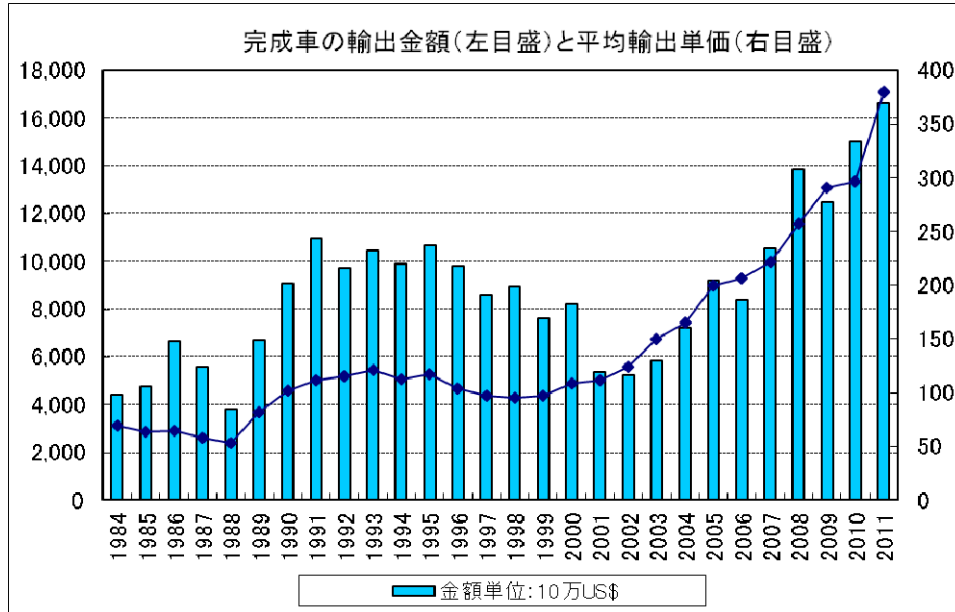
図 1 に 1984 年から 2011 年までの完成車輸出台数の推移を示す。2011 年は 2010 と比べ減少した様子が示されている。図 2 に 1984 年から 2011 年までの完成車の輸出金額及び平均輸出単価の推移を示す。

図 1



出所：台湾区自行車輸出業同業公会

図 2



出所：台湾国際貿易局 情報センター/台湾区自行車輸出業同業公会

数量は減少したものの、前年より大幅に高額な製品を輸出した結果、輸出総額は前年比10.7%増となった。台湾業界がさらに高付加価値化し、高級製品の世界の供給センターとしての存在感を高めていることが窺えた。

輸出先を見ると、欧州向け輸出台数は67%であるのに対し、北米向けは17%に留まっている(表1及び図3参照)。

表 1

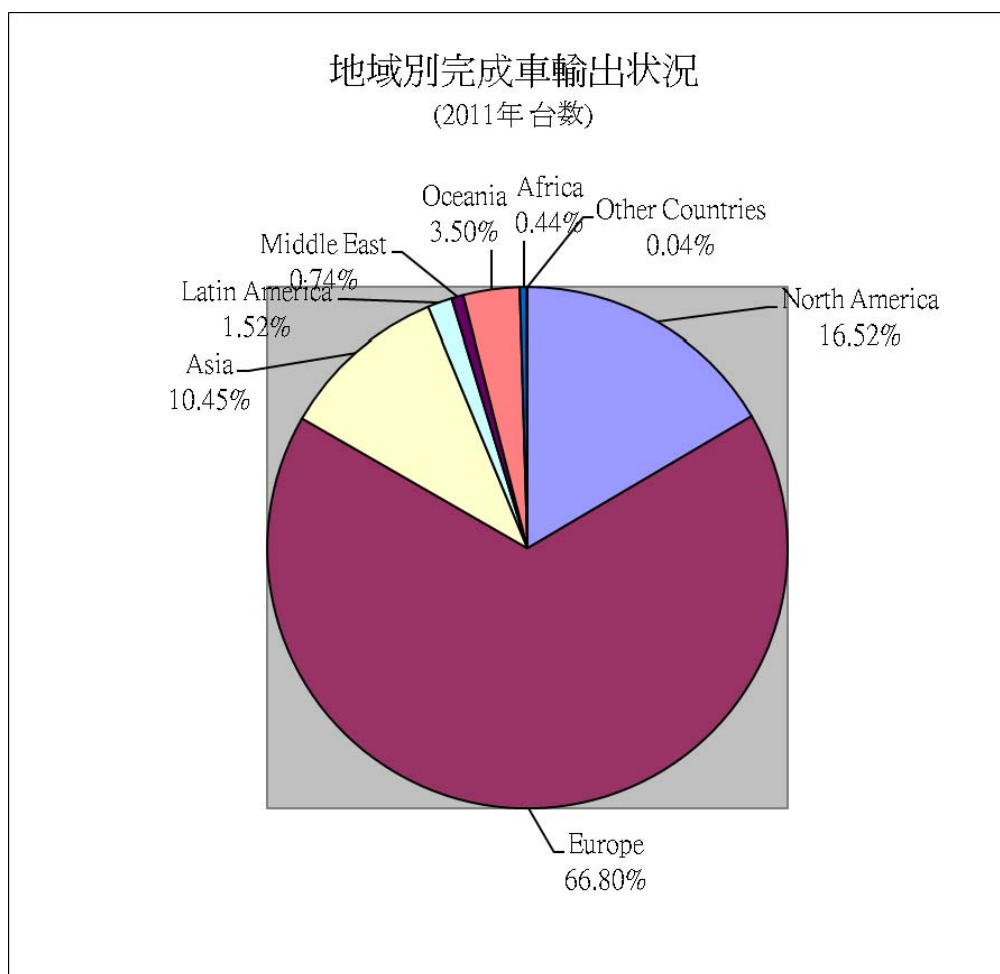
CCC Code No.: 87120010(Bicycles)

AREA	Quantity	%
North America	722,982	16.52
Europe	2,923,079	66.80
Asia	457,390	10.45
Latin America	66,568	1.52
Middle East	32,370	0.74
Oceania	153,036	3.50
Africa	19,108	0.44
Other Countries	1,643	0.04
<b>Total</b>	<b>4,376,176</b>	<b>100.00</b>

出所：台湾国際貿易局 情報センター/

台湾区自行車輸出業同業公会

図 3



一方、仕向け先別の金額については、欧州向けが 52%、北米向けは 26%となっており、相対的に北米向けに高価格のものが輸出されている状況が窺える(表 2 及び図 4 参照)。

表 2

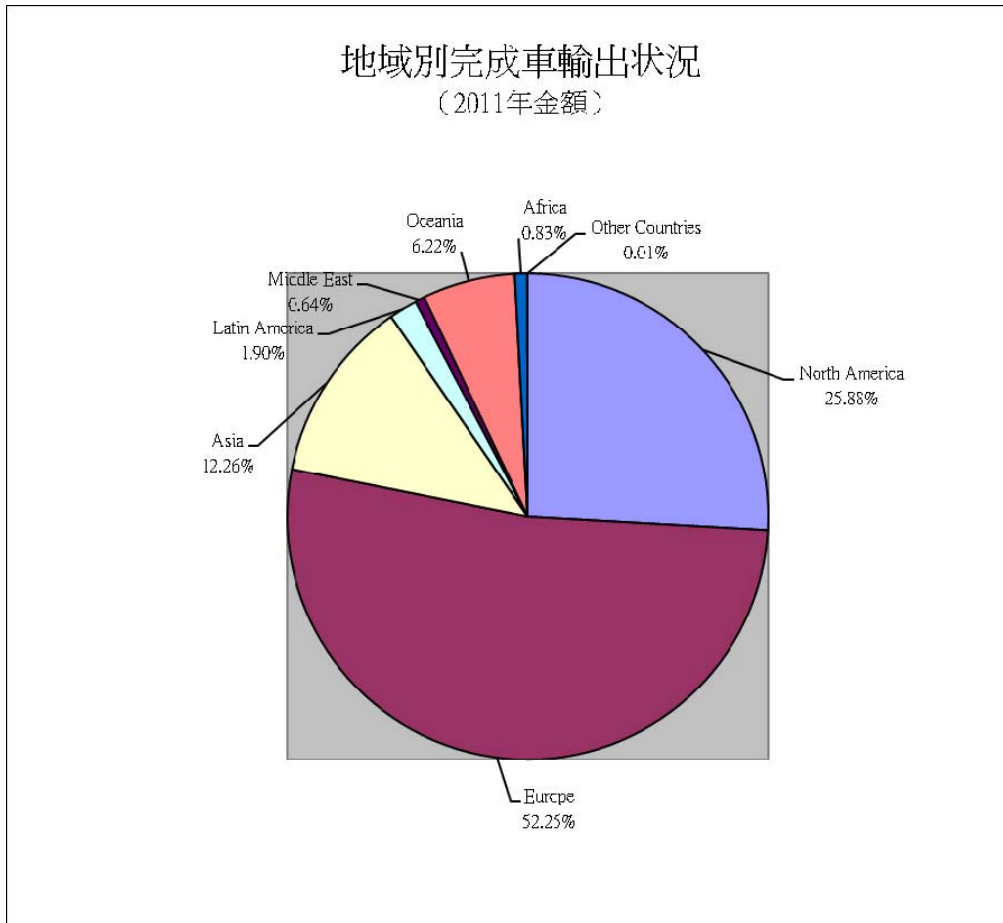
CCC Code No.: 87120010(Bicycles)

AREA	Value (US\$)	%
North America	430,364,994	25.88
Europe	868,807,410	52.25
Asia	203,819,446	12.26
Latin America	31,556,308	1.90
Middle East	10,700,770	0.64
Oceania	103,449,718	6.22
Africa	13,825,695	0.83
Other Countries	246,603	0.01
<b>Total</b>	<b>1,662,770,944</b>	<b>100.00</b>

出所：台湾国際貿易局 情報センター/

台湾区自転車輸出業同業公会

図 4



中国市場向けは、2011年1月から中台間のFTAであるECFA（兩岸經濟協力枠組協定）が発効し、中国の輸入関税率低減（12%及び13%→5%）効果によって、台数が177.7%増の33,804台、金額が207.1%増の1,756万米ドル、そして単価が10.6%高の519.3米ドルと極めて好調との話であった。

通常では旧正月明けは中国向け輸出がストップ状態となるが、2012年1月1日からは中国の関税が完全に撤廃されたため、アルミ合金などの高付加価値製品の輸出が昨年を上回る勢いで伸びている。1-2月の中国向け輸出台数は前年の18倍の15,008台で昨年同年実績の44.3%に、輸出金額は13.7倍の711万米ドルで昨年の40.5%に達しており、台湾業界としては現在、中国は欧米と肩を並べる重要な市場となっている。

さらに電動自転車の輸出台数に関する統計も入手したが、これによると、2011年はデンマーク、ドイツ、スイスなど欧州向けを主体として、18,000台強の電動自転車が輸出されたことが分かる(表3及び図5参照)。

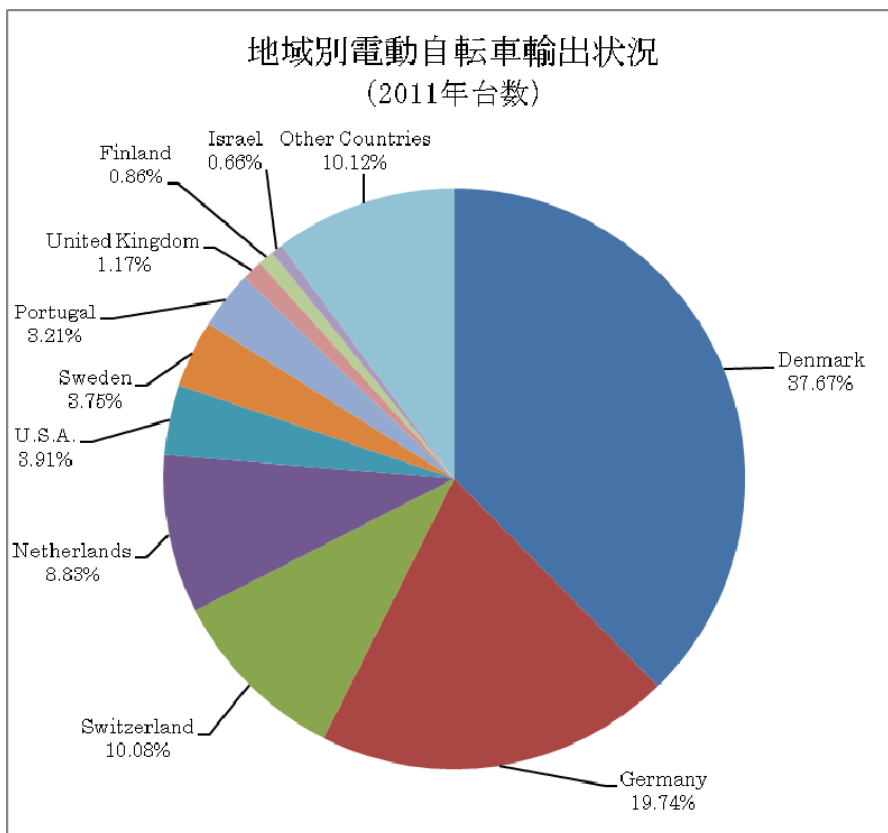
表 3

CCC Code No.: 87119030107, 87119030900 (Electric Bicycles)

AREA	Quantity	%
Denmark	6,895	37.67
Germany	3,612	19.74
Switzerland	1,845	10.08
Netherlands	1,616	8.83
U.S.A.	715	3.91
Sweden	686	3.75
Portugal	588	3.21
United Kingdom	214	1.17
Finland	158	0.86
Israel	120	0.66
Other Countries	1,853	10.12
<b>Total</b>	<b>18,302</b>	<b>100.00</b>

出所：台湾国際貿易局 情報センター/  
台湾区自行車輸出業同業公会

図 5



出所：台湾国際貿易局 情報センター/  
台湾区自行車輸出業同業公会



### ＜部品の輸出入について＞

今回 TBEA より部品の輸出入統計も入手することが出来たので、簡単に紹介する。台湾からの自転車統計は輸出統計が主体であるが、部品については輸入統計も入手できた。表 4 に 2011 年の主要自転車部品輸出統計について、2010 年と比較したものを示す。

金額面で見ると、フレーム及び関連部品、ブレーキ関係部品及びタイヤの輸出金額が多いことが分かる。

次に表 5 に 2011 年の主要自転車部品輸入統計を示す。金額面で大きいのは、フレーム及び関連部品、変速機及びブレーキ関係部品であることが示されている。

尚、部品の輸出入金額全体を見ると、輸入総金額が輸送総金額を上回っていることも表 4 と表 5 から読み取ることができる。

表4 2011年／2010年1-12月自転車主要部品輸出統計

品名	2011年 数量(kg)	2010年 数量(kg)	増/減 (%)	2011年 金額(US\$)	2010年 金額(US\$)	増/減 (%)
85121010001						
自転車用電気照明設備	417,774	342,592	21.95%	9,934,766	8,795,456	12.95%
85121020009						
自転車用照明視覚信号設備	108,615	105,011	3.43%	3,937,412	2,518,611	56.33%
87149120007						
その他フレーム、 ホーク及び関連部品	8,920,710	8,386,418	6.37%	313,989,641	255,818,480	22.74%
87149200108						
リム	2,127,411	2,006,283	6.04%	30,734,764	31,515,688	-2.48%
87149200206						
スポーク	685,670	767,630	-10.68%	4,027,696	4,169,903	-3.41%
87149200304						
リム及びスポーク	915,051	1,171,153	-21.87%	19,002,061	16,799,381	13.11%
87149310007						
ハブ(コースターブレーキ ハブ 及びハブブレーキを除く)	677,164	786,864	-13.94%	16,989,359	15,110,054	12.44%
87149320005						
フリースプロケットホイール	235,950	201,188	17.28%	3,519,441	2,863,501	22.91%
87149410006						
キャリパーブレーキ 及びその他の部品	528,442	896,405	-41.05%	6,313,030	7,388,737	-14.56%
87149490009						
その他のブレーキ 及びその他の部品	5,367,734	5,420,559	-0.97%	84,541,483	68,438,940	23.53%
87149500007						
サドル	1,625,341	1,874,220	-13.28%	19,215,988	19,269,263	-0.28%
87149610004						
ペダル及びその他の部品	2,257,982	1,867,756	20.89%	30,399,947	23,914,682	27.12%
87149620002						
ギヤクランク 及びその他の部品	2,425,039	1,963,984	23.48%	41,549,484	32,969,993	26.02%
73151100209						
ローラーチェーン	2,435,218	3,064,991	-20.55%	20,356,026	17,492,628	16.37%
87149990111						
変速器	364,452	384,236	-5.15%	22,985,471	20,544,361	11.88%
87149990120						
フリーホイール	838,672	1,089,122	-23.00%	15,240,883	14,061,755	8.39%

87149990139						
BB アクスル	368,262	426,962	-13.75%	1,998,119	1,906,844	4.79%
87149990148						
ハンドルステム	400,175	415,101	-3.60%	11,475,257	10,750,208	6.74%
87149990157						
シートポスト及び 上下チューブ	439,348	491,941	-10.69%	12,465,360	10,079,044	23.68%
87149990166						
ハンドル	1,165,924	1,215,896	-4.11%	22,448,521	20,058,157	11.92%
小計	32,304,934	32,878,312	-1.74%	691,124,709	584,465,686	18.25%
40115000008						
ゴム製タイヤ	4,874,856	4,695,498	3.82%	62,060,728	48,903,926	26.90%
40132000003						
ゴム製チューブ	2,590,783	2,663,477	-2.73%	28,509,708	24,143,628	18.08%
小計	7,465,639	7,358,975	1.45%	90,570,436	73,047,554	23.99%
合計	39,770,573	40,237,287	-1.16%	781,695,145	657,513,240	18.89%

出所：経済部国貿局／台湾区自行車輸出業同業公会

表5 2011年／2010年1-12月自転車主要部品輸入統計

品名	2011年 数量(kg)	2010年 数量(kg)	増/減 (%)	2011年 金額(US\$)	2010年 金額(US\$)	増/減 (%)
85121010001						
自転車用電気照明設備	147,106	167,787	-12.33%	2,384,651	2,463,578	-3.20%
85121020009						
自転車用照明視覚信号設備	29,657	21,028	41.04%	371,908	291,736	27.48%
87149120007						
その他フレーム、 ホーク及び関連部品	14,733,096	17,593,805	-16.26%	352,214,722	298,236,190	18.10%
87149200108						
リム	1,291,067	1,594,583	-19.03%	23,778,985	21,606,652	10.05%
87149200206						
スポーク	221,709	213,714	3.74%	5,888,270	5,085,136	15.79%
87149200304						
リム及びスポーク	632,857	689,208	-8.18%	17,215,447	16,422,080	4.83%
87149310007						
ハブ(コースターブレーキ ハブ 及びハブブレーキを除く)	2,327,534	2,664,697	-12.65%	34,909,581	33,631,010	3.80%
87149320005						
フリースプロケットホイール	547,431	627,201	-12.72%	21,455,180	18,968,448	13.11%
87149410006						
キャリパーブレーキ 及びその他の部品	422,174	506,389	-16.63%	18,932,814	17,874,278	5.92%
87149490009						
その他のブレーキ 及びその他の部品	3,109,372	3,809,049	-18.37%	80,184,649	75,668,321	5.97%
87149500007						
サドル	2,251,568	2,606,395	-13.61%	23,773,644	17,706,612	34.26%
87149610004						
ペダル及びその他の部 品	971,682	1,123,951	-13.55%	6,931,429	7,202,207	-3.76%
87149620002						
ギヤクランク 及びその他の部品	3,160,837	3,484,753	-9.30%	66,870,152	62,366,540	7.22%
73151100209						
ローラーチェーン	2,211,482	2,497,477	-11.45%	16,783,007	13,317,869	26.02%
87149990111						
変速器	1,768,991	1,785,868	-0.95%	100,240,826	82,381,144	21.68%
87149990120						

フリーホイール 87149990139	600,638	1,013,787	-40.75%	11,650,315	10,424,699	11.76%
BB アクスル 87149990148	99,063	139,254	-28.86%	3,042,729	86,990	418.36%
ハンドルステム 87149990157	839,137	1,080,284	-22.32%	10,089,898	10,293,072	-1.97%
シートポスト及び 上下チューブ 87149990166	992,899	1,045,007	-4.99%	13,127,144	11,734,819	11.86%
ハンドル	1,374,171	1,520,824	-9.64%	13,377,959	12,142,943	10.17%
小計	37,732,471	44,185,061	-14.60%	823,223,310	718,404,324	14.59%
40115000008 ゴム製タイヤ 40132000003 ゴム製チューブ	3,490,734	3,599,631	-3.03%	27,883,637	21,685,258	28.58%
小計	738,043	845,936	-12.75%	4,102,188	3,537,236	15.97%
小計	4,228,777	4,445,567	-4.88%	31,985,825	25,222,494	26.81%
合計	41,961,248	48,630,628	-13.71%	855,209,135	743,626,818	15.01%

出所：経済部国貿局／台湾区自行車輸出業同業公会

### <台湾メーカーの台湾回帰と東南アジア進出について>

10年以上前から台湾業界は、中国を中心に海外進出が進み国内産業の空洞化が進んでいる。しかし、近年中国国内の人件費が年々高騰しており、5年後には台湾を上回ると予測する意見もある。それに対応して台湾メーカーの一部には台湾に回帰するメーカーも出ているようである。ただ、カンボジア、ミャンマー、ベトナム等東南アジア諸国への進出については、今のところは目立った動きは見られない。

東南アジア諸国では、既にそれぞれの地域内での生産、販売が広がっており、台湾メーカーでなく、近隣地域の企業の進出が多くなってゆくのではないかと見られている。

### <大手2社の2011年業績>

地元経済紙(工商時報)によると、ジャイアント、メリダの2011年の業績は中国市場が好調なため、グループ全体の販売台数はジャイアントが前年比5%増の550万台、メリダが前年比13.45%増の205.61万台となったという。特に、ジャイアントの場合、中国での販売量が既に米国市場の販売量を超えたそうだ。

ところで同社としては、人件費上昇の影響について、今後中国市場で中・高級車の販売が増加するなら、製品価格に占める人件費の割合が相対的に低くなるため、大きくなることはないと考えている。そのため、現在、人件費コストは販売金額の6%を占めているが、今後より高価格、高付加価値製品を拡大することに主眼を置いている。

また、同社のメリダとの関係については、もし台湾国内市場だけに限定されていれば、ジャイアントはメリダとの熾烈な競争になるが、市場は世界に広がっているため、メリダとはA-Teamで協力的な関係になっている。ジャイアントはメリダと協力して世界の市場を開拓してゆくという。



シマノは今年も多くの来場者を集めていた。

以 上